

2022. 3. 25

報道関係者 各位

&lt; 配信枚数3枚 &gt;

## 【立命館土曜講座のご案内】

4月テーマ「ダイバーシティ再考—人文・社会科学から『多様性』を問い直す」

開催日時：2022年4月9日(土)・16日(土)・23日(土) 10:00~11:30

開催方法：オンライン(Zoom ウェビナー)

4月の立命館土曜講座は、人文科学研究所の企画として、「ダイバーシティ再考—人文・社会科学から『多様性』を問い直す」をテーマに、オンライン(Zoom ウェビナー)で開講いたします。

どなたでも無料で受講いただけますので、ご関心のある方のご参加をお待ちしております。

なお、4月より講座時間が10:00~11:30に変更になります。

記

## ■立命館土曜講座 4月テーマ「ダイバーシティ再考—人文・社会科学から『多様性』を問い直す」

(1)第3355回「ベトナムと障害者—平和・包摂・結束の視点から」

日時：2022年4月9日(土) 10:00~11:30

講師：立命館大学産業社会学部 教授 黒田 学

(2)第3356回「移民の『老い』から考える社会のダイバーシティ:フィリピン人移民研究を中心に」

日時：2022年4月16日(土) 10:00~11:30

講師：立命館大学国際関係学部 准教授 辻本 登志子

(3)第3357回「マジョリティを問い直す—ブラック・ライヴズ・マターの射程」

日時：2022年4月23日(土) 10:00~11:30

講師：立命館大学文学部 教授 坂下 史子

開催方法：オンライン(Zoom ウェビナー)

内 容：別紙参照

聴 講 料：無料

定 員：400人 ※実施2日前17:00までに要事前申込。定員に達し次第、受付を終了。

申込方法：立命館土曜講座のWEBサイトよりお申し込みください。

<http://www.ritsumeit.ac.jp/acd/re/k-rsc/kikou/doyokozakikoh.htm>

主 催：立命館大学衣笠総合研究機構

そ の 他：日本語の字幕をご利用いただけます。

以上

本リリースの配布先：京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ

## ●内容についてのお問い合わせ先

立命館大学衣笠総合研究機構 担当:武田・瀬古

TEL.075-465-8224

## 別紙

### ■立命館土曜講座 4月テーマ「ダイバーシティ再考—人文・社会科学から『多様性』を問い直す」

#### (1)第 3355 回「ベトナムと障害者—平和・包摂・結束の視点から」

日時：2022年4月9日(土) 10:00～11:30

講師：立命館大学産業社会学部 教授 黒田 学

講師による内容紹介：

東南アジアに位置するベトナムは、現在では著しい経済成長を果たしており、コロナ禍前には多くの観光客が訪れました。しかしながら、ベトナムが独立と国家統一を果たすまでには長い年月が必要でした。ベトナム戦争時には、化学兵器である枯れ葉剤が散布されるなど、兵士だけでなく子どもや市民が戦争被害の犠牲者となりました。ベトナム政府によれば、枯葉剤被害者は 300 万人、そのうち子どもは 30 万人とされています。本講座では、1994 年からほぼ毎年ベトナムに足繁く通い、研究調査や発表、交流、学生引率等、さまざまな活動を通じて考えてきたことをお伝えします。ベトナムの障害児教育・福祉の展開と課題について、平和・包摂・結束の視点からベトナムの関係者による取り組みを交えて考えます。

#### (2)第 3356 回「移民の『老い』から考える社会のダイバーシティ:フィリピン人移民研究を中心に」

日時：2022年4月16日(土) 10:00～11:30

講師：立命館大学国際関係学部 准教授 辻本 登志子

講師による内容紹介：

超高齢社会の到来にあたり、さまざまな社会問題や政策上の課題が指摘されてきました。しかし、それらの多くは日本人の「老い」を想定したものであり、社会におけるさまざまな国籍や文化的背景をもつ移民の「老い」に社会の関心が向くことはありませんでした。どちらかという、移民は日本の超高齢社会を支える労働力、あるいは社会保障の新たな担い手として捉えられる反面、彼女または彼ら自身が「老い」をいかに考えているのかという問いが置き去りにされてきたように思います。国民を中心に据えた観点からは、現在進行しているさまざまなバックグラウンドをもつ人々の「老い」や、それに伴う新たなニーズや課題を見据えることが困難になるでしょう。これまでの調査活動で得られたフィリピン人移民へのインタビュー資料をもとに、当事者からみた「老い」の課題とは何なのかを考察し、「老い」のダイバーシティを実現するために今後社会に必要とされることは何なのか、みなさまと共に考え、さまざまな意見を交換する機会にしたいと思います。

#### (3)第 3357 回「マジョリティを問い直す—ブラック・ライヴズ・マターの射程」

日時：2022年4月23日(土) 10:00～11:30

講師：立命館大学文学部 教授 坂下 史子

講師による内容紹介：

2020 年にアメリカ合衆国で再燃し、日本を含む世界中に拡大したブラック・ライヴズ・マター (BLM) 運動。度重なる黒人への警察暴力致死事件が発端となったこの運動は、黒人の命(ブラック・ライヴズ)が軽視されることだけではなく、黒人の暮らし(ブラック・ライヴズ)を抑圧する差別構造(制度的人種主義)の問題にもあらためて抗議の声を上げ、その撤廃を求めました。特定のマイノリティ集団が不利となるような仕組みが社会に組み込まれ、不平等が再生産される社会構造は、刑事司法制度における不当

な扱いや投票弾圧、医療・所得・教育の格差、雇用・住宅の差別など、人々の暮らしの至るところに見られます。本講座では、今なお続く BLM 運動が明らかにした一連の問題の中でも、一見すると制度的人種主義とは無関係と思われるような文化事象―歴史的人物の銅像などの撤去や商品キャラクター、モチーフの変更といった事例を紹介しながら、「マジョリティを問い直す」という BLM の射程について考えます。視聴くださった方々がこれらの事例を日本の文脈に置き直し、身近な問題として考える視座を提供できればと思います。

#### ■立命館土曜講座

1946 年から続く、市民向けの無料公開講座。故・末川博名誉総長の「学問や科学は国民大衆の利益や人権を守るためにある。学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要」との思いのもとに、大学の講義を市民に広く開放し、大学と地域社会との結びつきを強めることを目指しています。

<WEB サイト> <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/kikou/doyokozakikoh.htm>